

授業科目名	緩和ケア			担当教員	中村 光江	
開講年次	2年前期	セメスター	3	時間数(単位数)	15 (1)	
必修選択	選択	授業形態	講義	使用教室		
授業の目的	苦痛を有する患者および家族の特徴を理解し、患者や家族にとってできる限り望ましい QOL を実現するために必要な理論、ケア技術について学ぶ。また、緩和ケアチームにおける看護職者の役割を理解する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの意義と特徴を理解できる。 2. 生命を脅かす病苦を持つ人およびその家族の特徴を理解できる。 3. エンド・オブ・ライフケアについて考察できる。 4. チームによる緩和ケアを学び、看護の役割について考察できる。 5. 緩和ケアに関する課題、特に倫理的課題について考察できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	生と死、看護師の姿勢 緩和ケアの特徴と意義、歴史 エンド・オブ・ライフケア	講義	予習：緩和ケアの定義およびシシリー・ソングラスについて調べる。 復習：テキスト第 I 章を熟読。	2 時間	中村	
2	生命を脅かす病苦を持つ人の特徴 全人的苦痛のとらえ方	講義	予習：キューブラ・ロスについて調べる。 復習：テキスト第 I 章の 1, 2, を熟読。	2 時間	中村	
3	緩和ケアの実践方法 (1) グループワーク 症状のメカニズムとその緩和 日常生活を支えるケア	演習	予習：テキスト第 III 章を熟読 復習：テキストおよび参考文献を用い、 グループワークのまとめ。	3 時間	中村	
4	緩和ケアの実践方法 (2) 発表 症状のメカニズムとその緩和 日常生活を支えるケア	演習 講義	予習：第 3 回のグループワークの発表 準備。 復習：テキスト第 III 章を熟読。	2 時間	中村	
5	緩和ケアに関する倫理的課題 意思決定を支えるケア	講義	予習：緩和ケアにおける倫理的課題 を考える 復習：テキスト第 II 章の 2 を熟読。	2 時間	中村	
6	緩和ケアの実践方法 (3) チームアプローチと看護の役割 バッドニュースを伝える コミュニケーション技術	講義 演習	予習：テキスト第 I 章の 4 を熟読。	1 時間	中村	
7	看取りのケア 家族への配慮やグリーフケア 緩和ケアおよびエンド・オブ・ラ イフケアの動向	講義	復習：テキスト第 IV 章、第 VII 章を熟読	1 時間	中村	
8	緩和ケアの実際	講義	復習：テキスト第 V 章、第 VI 章を熟読。	1 時間	中村	

先行履修科目					
テキスト	梅田恵・射場典子 編：緩和ケア 改訂第2版. 南江堂, 2018.				
参考文献	Kübler – Ross, E. : On Death and Dying. 1969, 鈴木晶 訳：死ぬ瞬間—死とその過程について. 中央公論新社, 2001. 広瀬寛子：悲嘆とグリーフケア. 医学書院, 2011. 小西恵美子 編：看護倫理 改訂第2版. 南江堂, 2014. 鈴木志津枝・内布敦子編. 緩和・ターミナルケア看護論, 2011.				
科目の位置づけ	既習の看護学およびその他諸学の知識を統合する科目の一つとして、緩和ケアおよびエンド・オブ・ライフケアについて考える。医療サービスを受ける人々のQOLへの関心は高まる傾向にある。また、高齢化社会においては自身の終焉について考える人々も増えつつあり、緩和ケアやエンド・オブ・ライフケアへのニーズは増大している。自らの死生観および看護者としての姿勢を問い直し、より深い人間理解に基づいた看護を目指す。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	○			◎	
評価方法	レポート(80%)、講義やディスカッションへの参加(20%)				